

古墳とは何か？

古墳は 3 世紀から 7 世紀までの間に築造された大きな段状の墳丘墓だ。墳丘は土を積み上げて形成されたもので、その過程で壕となる溝ができる。墳丘の斜面にはたいていはこぶし大の石が敷き詰められており、段状の平らな部分には埴輪という素焼きの偶像が並べられる。古墳には四角形、長方形、円、帆立貝形、前方後円など様々な形がある。最大級の古墳は通常前方後円墳で、一番大きいものは面積が約 32.3 ヘクタールにもなる。

その大きさからステータスを象徴していたことがわかる。いくつかの古墳が調査され、外国製の多くの副葬品が発見された。中国や朝鮮半島からだけでなく、遠くペルシャやローマ帝国から渡って来たものもある。大阪平野南部に点在する古墳群からの発見により、日本がアジア諸国と文化的・技術的交流を持っていたことがわかり、古代日本の人々の暮らしの様子について知ることができる。たとえ書物として残っていても、古墳は古代日本の人々の間に洗練され文化が存在したことの証である。

藤井寺市の古墳は 4 世紀から 6 世紀のものである。2019 年に、古市地域の 26 の古墳と、堺市の 23 の古墳が百舌鳥・古市古墳群として UNESCO 世界遺産に登録された。